善通寺市立学校等の再編整備に係る説明会

～子どもたちの豊かな学びと成長を支えるこれからの教育・保育環境に向けて～

善通寺市教育委員会　学校再編対策課

説明会の目的

お伝えすること

- なぜ学校等の再編整備が必要なのか
- 学校の規模や配置に関する国の考え方
- 検討委員会から提出された報告書

お聞きしたいこと

- 学校等の再編整備についてのご意見
- 通学、送迎など、心配なこと
- 大切にしたいこと、必要な配慮

※本日の説明会は、学校等の再編整備の内容を決定する場ではありません。
検討委員会からの報告書と市が考える論点をお伝えし、ご意見を伺う場です。
いただいたご意見は、市の学校等再編整備方針を策定する際の参考とします。

提案されていること・決まっていること・これから決めること

検討結果報告書で提案されたこと

- 学校、園の数や配置

決まっていること

- １園目のこども園の整備

これから検討すること

- 学校、園の具体的な場所
- 通学方法
- 施設整備時期など

これから決めること

- 市の学校等再編整備方針
- 事業費、財源

※学校等再編整備検討委員会の報告書は、学校等の再編整備の方向性を示した提案です。市として最終決定したものではありません。皆さんのご意見をお聴きしながら、市の学校等再編整備方針を検討、策定していきます。

なぜ今、学校等の再編整備を考えるのか

１　目的

将来にわたり、子ども達に望ましい教育・保育環境を確保することが目的です。

２　背景

（１）子どもの数の減少　【資料１】参照

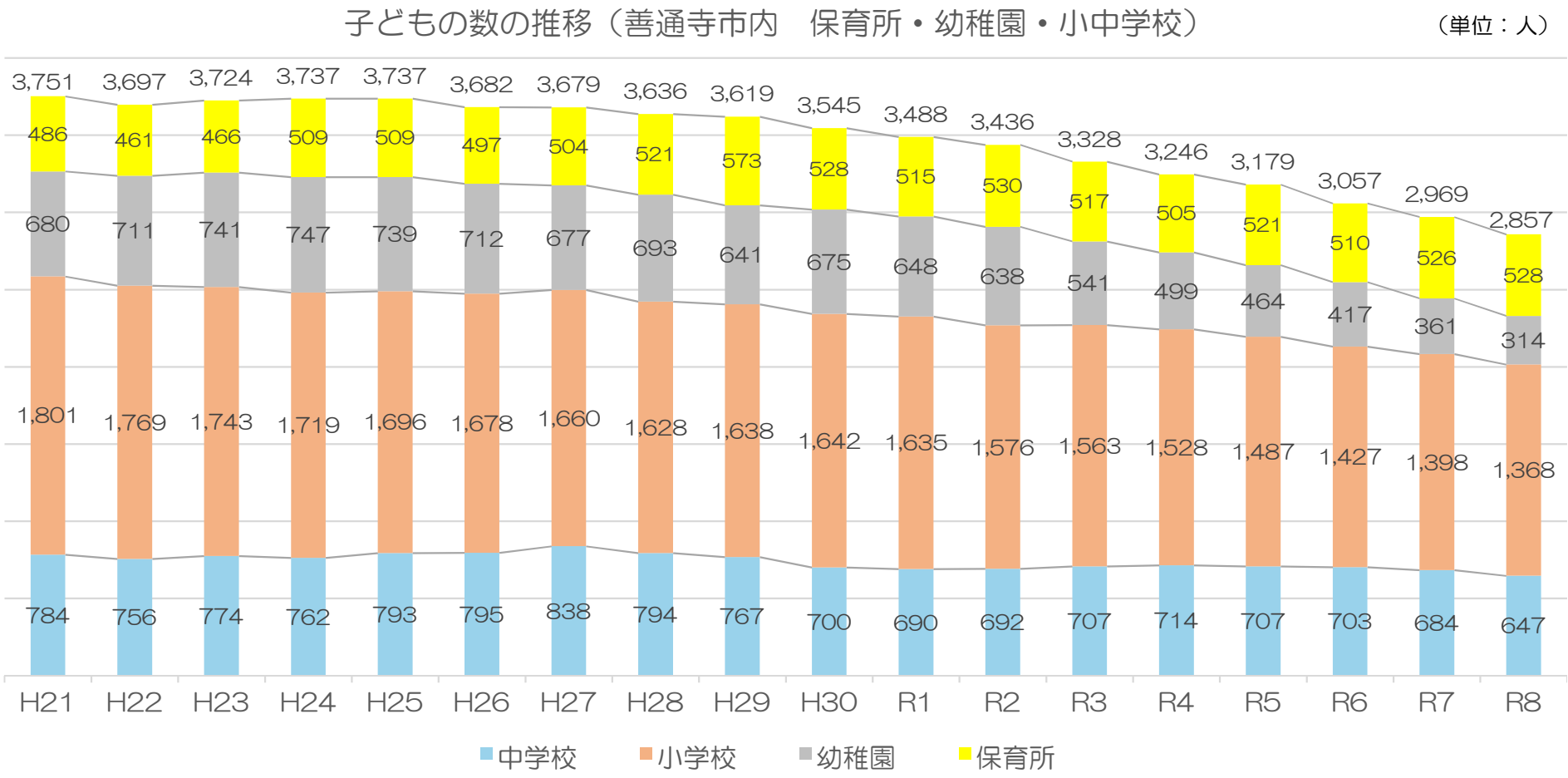
児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高めることを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましい

（２）学校施設の老朽化　【資料２】参照

学校施設の多くが築 40 年以上となっており、建替え・改修を考える必要があります。

子どもの数の推移【資料１】

平成 21 年度（3,751 人）　→　令和８年度（2,857 人）　約 900 人減少



学校等の施設の老朽化【資料２】

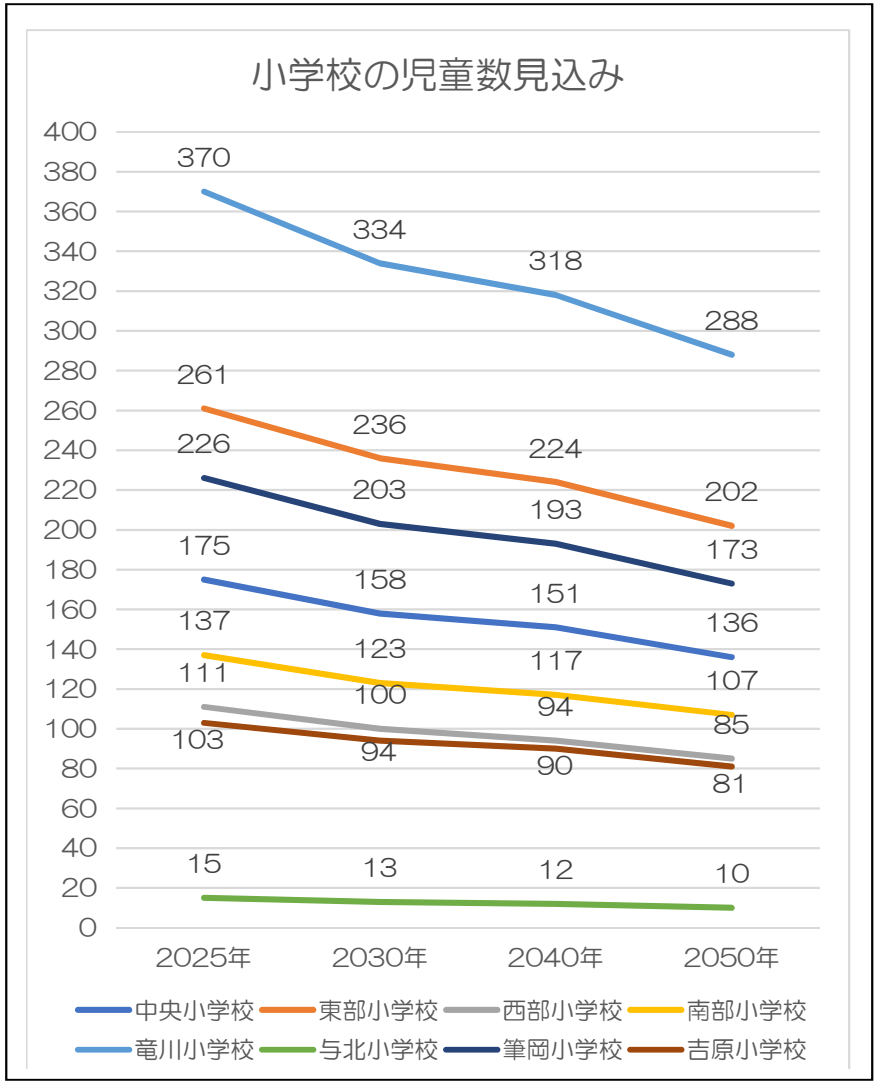
学校施設のほとんどが築 40 年以上を経過

学校名	主な教室棟の築年数	体育館の築年数	幼稚園・保育所名	築年数
中央小学校	58 年	52 年	中央幼稚園	49 年
東部小学校	54 年	36 年	東部幼稚園	45 年
西部小学校	32 年、47 年	44 年	西部幼稚園	44 年
南部小学校	52 年	45 年	南部幼稚園	47 年
竜川小学校	48 年	53 年	竜川幼稚園	43 年
与北小学校	49 年	44 年	与北幼稚園	47 年
筆岡小学校	53 年	43 年	筆岡幼稚園	48 年
吉原小学校	51 年	45 年	吉原幼稚園	43 年
東中学校	18 年	59 年	竜川保育所	44 年
西中学校	12 年、50 年	46 年	善通寺保育所	43 年

小学校の児童数とクラス数の現状、児童数の見込み

※国立社会保障・人口問題研究所の資料から推計

学校名	令和８年（2026 年）５月１日	
	児童数（人）	クラス数（学級）
中央小学校	170	6
東部小学校	281	12
西部小学校	97	6
南部小学校	124	6
竜川小学校	357	13
与北小学校	18	4
筆岡小学校	227	10
吉原小学校	94	6



学校規模を考える際の視点

文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より

１　小規模校と各学年で複数の学級を編制できる場合のメリット

小規模校のメリット	複数の学級を編制できる場合のメリット
・一人一人の学習状況を把握でき、きめ細かな指導が行いやすい ・意見や感想を発表できる機会が多くなる ・様々な活動において一人一人がリーダーを務める機会が多くなる ・異年齢の学習活動を組みやすい	・多様な意見に触れさせることができる ・新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる ・クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる ・学級同士が多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高める環境を作ることができる

２　学級数が少ない場合と大規模校の課題

学級数が少ない場合の課題	大規模校の課題
・クラス替えが全部又は一部の学年でできない ・クラス同士が多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高める教育活動ができない ・音楽、体育等における集団で行う教育活動に制約がでる	・学校行事等において一人一人が活躍する場が少なくなる ・異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある ・きめ細かな指導を行うことが難しくなる

学校規模の標準

文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より

小学校・中学校の適正規模　（学校教育法施行規則第 41 条、79 条）

学級数は１２学級以上１８学級以下を標準とする。

ただし、地域の実態その他により特別の事情のある時は、この限りでない。

適正な学校規模の条件（義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第４条）

学級数が小学校及び中学校にあってはおおむね１２学級から１８学級までであること。

通学距離が、小学校にあってはおおむね４㎞以内、

中学校にあってはおおむね６㎞以内であること。

１学級の児童生徒の数（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）

小学校　３５人　　中学校　３５人

学校規模の適正化に関する基本的な考え方

文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」より

① 教育的な観点

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、時には競い合って学びを高めることを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいとされています。

② 地域のコミュニティや教育の核としての性格への配慮

小・中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、保育、地域の交流や学びの場、災害時の避難所としての利用等、様々な機能を併せ持っています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子ども達を育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています。

これまでの学校等再編整備の検討経緯①

善通寺市学校等の在り方検討委員会

令和４年９月～令和６年３月　13回開催

提言書（令和６年３月25日）の内容

中学校については、
１校とするのが望ましい。

小学校については、
２校または３校とするのが望ましい。

幼稚園については、
こども園を２園とするのが望ましい。

ただし、小学校が３校となる場合、
３園とすることも考慮する。

これまでの学校等再編整備の検討経緯②

善通寺市学校等再編整備検討委員会

令和６年 11 月～令和８年７月　　21 回開催

検討結果報告書（令和８年８月 21 日）の内容

中学校については、
東中学校の校舎を使用し
１校とすることを提案する。

小学校については、
２校とすることを提案する。

西中学校用地に１校目を整備し、竜川小学校用地または新しい用地に２校目を整備する。

幼稚園・保育所については、こども園を２園とすることを提案する。

竜川小学校東側の市有地と中央小学校用地に整備する。ただし、私立幼稚園、保育所、こども園の運営に配慮する。

※検討委員会は、学識経験者や学校・園、保護者、住民等の代表者により検討を行いました。

中学校の再編整備の提案と課題（検討結果報告書）

報告書で示された方向性	課題
中学校は、東中学校の校舎を使用して１校とすることを提案 （理由） ・東中学校・西中学校のいずれも市の中心部に位置し、両校の距離も近く、中心部に１校とする場合でも通学は現在と大きく変わらない ・１校として学びの環境を整えたほうがよい ・東中学校のほうが増改築の規模が小さくて済むと考えられる	・学校の選択ができなくなる ・通学路が変わる ・教師の負担が増える可能性がある ・部活動や社会体育で使える体育館が減る ・駐輪場、教室、職員室が不足する

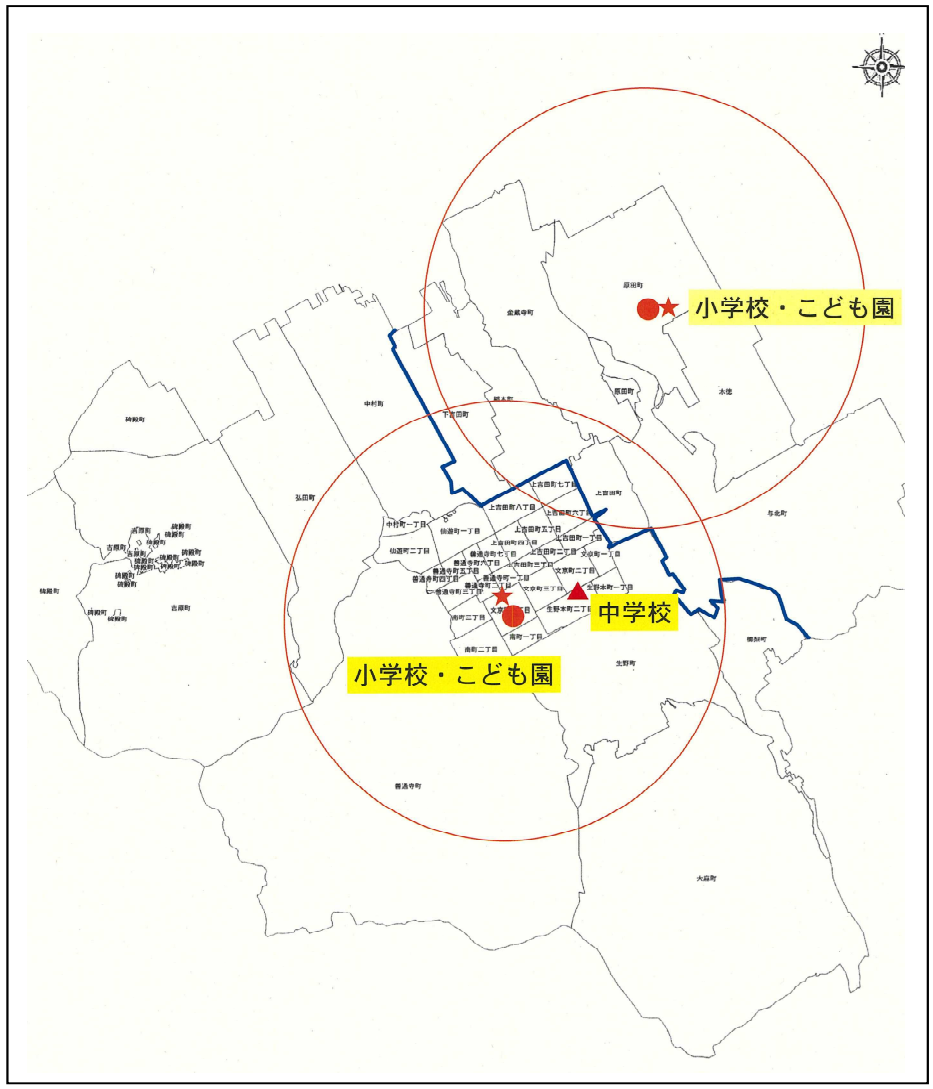
小学校の再編整備の提案と課題（検討結果報告書）

報告書で示された方向性	課題
小学校は、２校とすることを提案 **西中学校用地に１校目を整備し、竜川小学校用地または新しい用地に２校目を整備する。** （理由） ・学校規模を維持できる ・クラス替えができる ・いろいろな友達との交流が増える ・文部科学省が推奨する教科担任制の実施に適している（３クラス程度が望ましい） ・建設費用が３校案に比べて抑えられる	・多くのスクールバスが必要になり費用がかかる ・通学距離が遠くなる ・現在の校区が分かれてしまう学校が出てくるため、再編整備の当初に校区外への就学が多くなる可能性がある

幼稚園・保育所の再編整備の提案と課題（検討結果報告書）

報告書で示された方向性	課題
幼稚園・保育所は、こども園を２園とすることを提案 **竜川小学校東側の市有地と中央小学校用地に整備する。ただし、私立幼稚園、保育所、こども園の運営に配慮** （理由） 財政上の制約を考慮すると、複数のこども園の同時建設は現実的ではなく、時間の経過とともに園児数の減少が進むため、将来的に３園の必要性は低下すると思われる。また、市内には私立施設があることから、公立こども園は、私立施設との共存を考慮した規模とし、最終的に２園とする。	・送迎が不便である ・１園あたりの規模が大きく、職員の業務負担を均一にするなどの管理が大変である

善通寺市立学校等の配置（案）（検討結果報告書）



※赤の円は小学校から約２km の範囲　※青の線は学校区の境

▲中学校１校　現在の東中学校校舎を利用

予測　2035 年　482 人　15 学級
2040 年　469 人　15 学級
2050 年　441 人　15 学級

●小学校２校　現在の西中学校用地に整備

予測　2035 年　719 人　24 学級
2040 年　686 人　24 学級
2050 年　620 人　20 学級

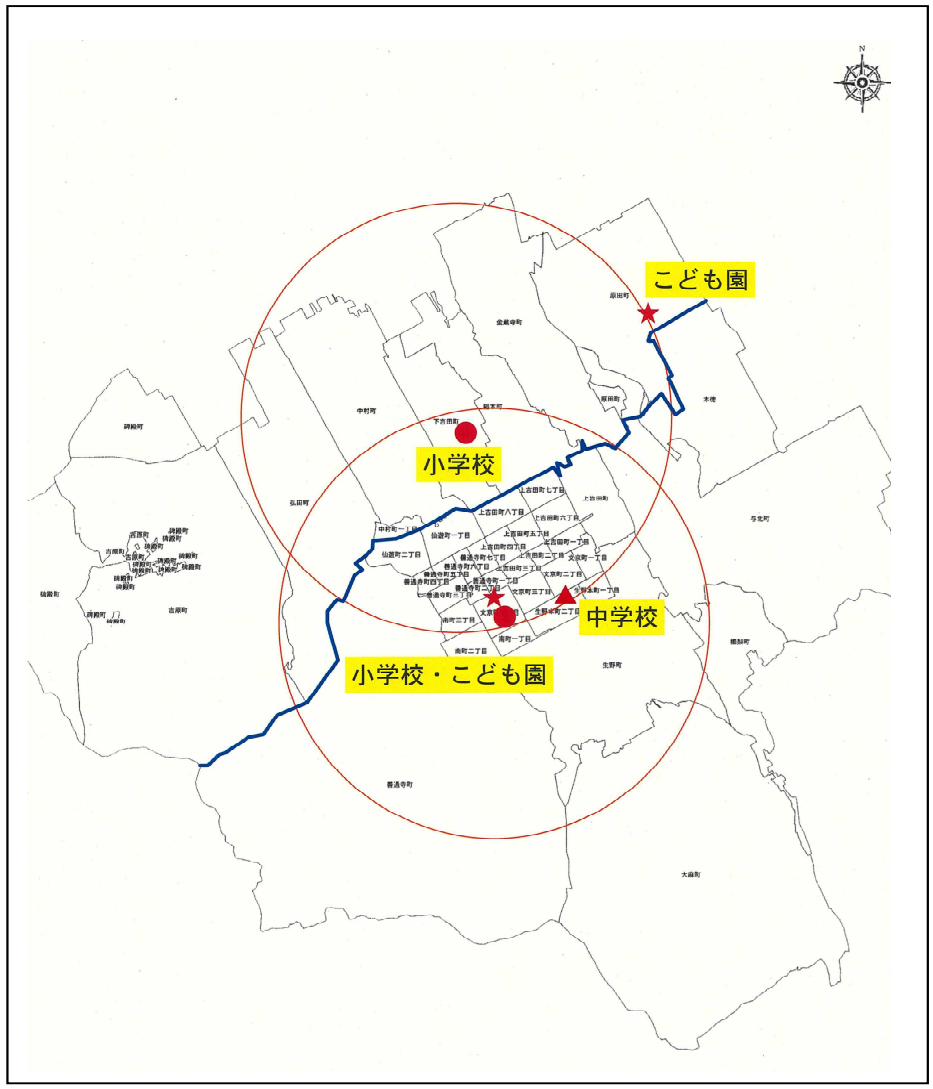
現在の竜川小学校用地に整備

予測　2035 年　521 人　18 学級
2040 年　495 人　18 学級
2050 年　445 人　15 学級

★こども園２園　竜川小学校東側に整備

現在の中央小学校用地に整備

善通寺市立学校等の配置（案）（検討結果報告書）



※赤の円は小学校から約２km の範囲　※青の線は学校区の境

▲中学校１校　現在の東中学校校舎を利用

予測　2035 年　482 人　15 学級
2040 年　469 人　15 学級
2050 年　441 人　15 学級

●小学校２校　現在の西中学校用地に整備

予測　2035 年　556 人　19 学級
2040 年　528 人　18 学級
2050 年　476 人　16 学級

新しい用地(場所未定)に整備

予測　2035 年　684 人　22 学級
2040 年　650 人　22 学級
2050 年　584 人　19 学級

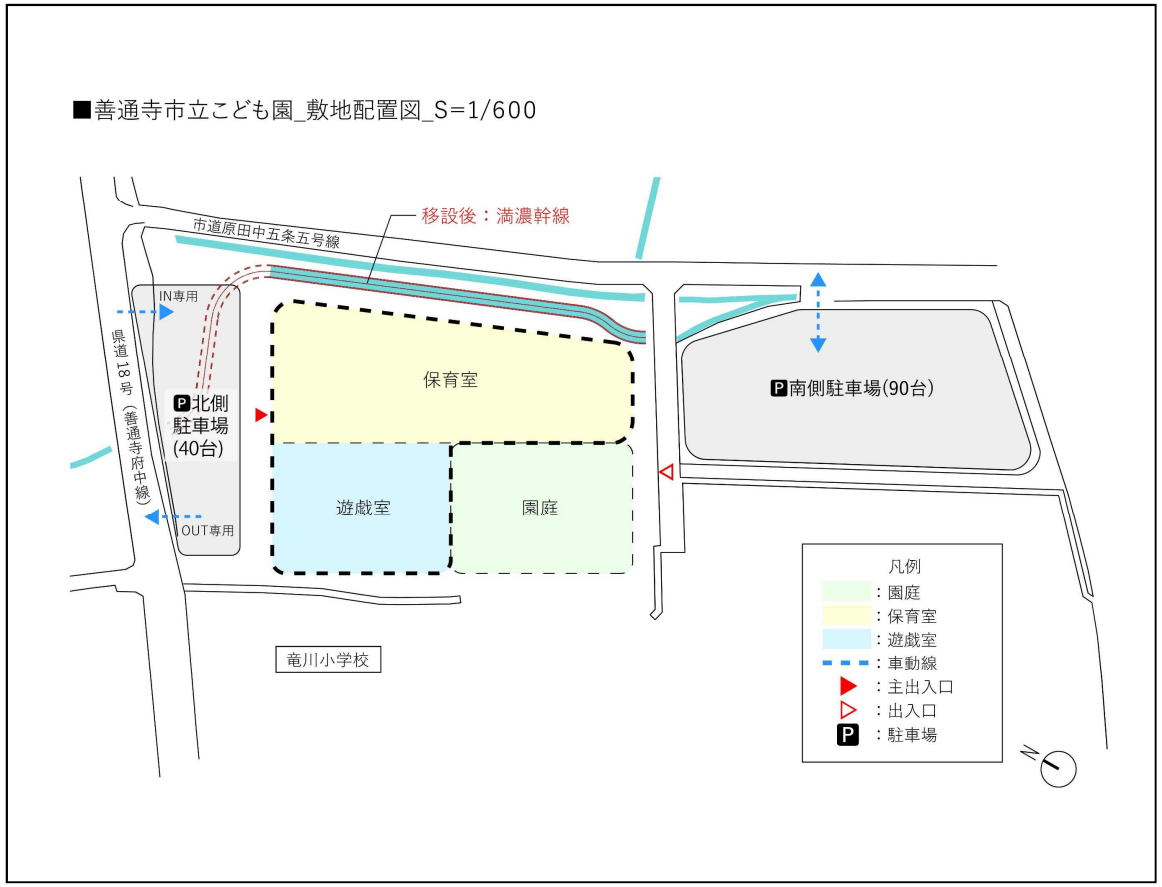
★こども園２園　竜川小学校東側に整備

現在の中央小学校用地に整備

新しいこども園の整備状況

(仮称)善通寺市立こども園整備基本計画（案）

公立こども園２園のうち１園目については、竜川小学校東側の市有地を計画地として整備を進めています。



計 画 地　竜川小学校東側

規　　模　170～180 人規模

延床面積　約 2915 ㎡

開園予定　令和 12 年４月

※竜川幼稚園、竜川保育所は、１園目の公立こども園の開園に合わせて閉園し、その機能をこども園に統合します。

今後の進め方と検討事項

１　今後の進め方（予定）

令和８年11月 → 令和９年２月ごろ → 令和９年度中

保護者説明会　　地域住民説明会　　市の学校等再編整備方針の策定

２　これから検討すること

（１）市の学校等再編整備方針

（２）総事業費、財源

※現時点では、総事業費や財源の見通しは確定していません。今後、次のような費用を含めて検討します。

校舎・園舎の建設費、用地取得・造成費、スクールバスの導入・運行費、施設・設備の維持管理費など

最後に

学校等の再編整備に関して、皆さんのご意見をお寄せください

こちらの QR コードから「学校の将来の在り方について（わたしの意見）」にお進みいただき、ご回答ください。

ご参加いただき、ありがとうございました。